

荒川が「暮らしの水」を支えています

水は限りある「資源」です

国民1人あたりの1日に使う生活用水は286リットル※にもなります。これらの生活用水の多くは、荒川の秋ヶ瀬取水堰から取水され、埼玉県民約430万人、東京都民約1250万人の暮らしを支えています。

こうした「暮らしの水」を支えている荒川の水ですが、季節によってその水の量が大きく変化して、時には足りなくなる場合もあります。降雨量が少なかった平成29年には、荒川水系において平成9年以来、20年ぶりに取水制限が実施されたことがありました。

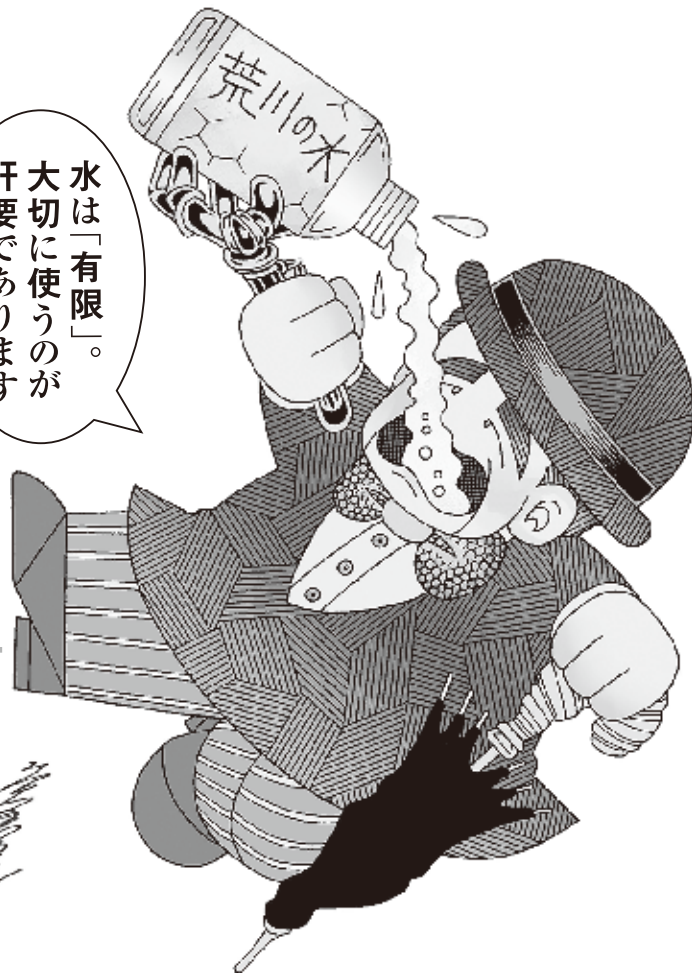
水は限りある「資源」です。水を大切に使い、節水を心がけていただきますよう皆様のご協力をお願いいたします。

※国土交通省「令和2年版日本の水資源の現況」



秋ヶ瀬取水堰。ここで取水された荒川の水が、埼玉・東京へ供給されています

水は「有限」。
大切に使うのが
肝要であります



暮らしの水を守る都会のオアシス 平地のダム、荒川貯水池「彩湖」



写真左側に流れる荒川沿いに整備された荒川貯水池「彩湖」

満々と水をたたえる荒川貯水池「彩湖」。周辺には公園などが整備され、都会のオアシスとしてにぎわいます。実は、彩湖は平地にあるダムなのです。渇水時には貯めた水を秋ヶ瀬取水堰の上流へ放流しています。

さらに、併設する浄化施設で荒川水循環センターの下水処理水を高度処理して、秋ヶ瀬取水堰の下流へ放流することで、その量と同じ水量を荒川から取水することができます。

荒川を知ろう 調節池 で 検索



水を安定的に利用するために ダムなどを効率的に運用しています



荒川の上流部には二瀬ダム、浦山ダム、滝沢ダム、下流部には荒川貯水池（彩湖）があります。また、武蔵水路から利根川の水を導水し、水の安定供給を図っています。しかし、雨の降り方や降った場所によっては、水を安定供給できないことがあるため、各施設を統合管理することで効率的かつ安定的に水を利用できるようになります。



浦山ダム。荒川上流部のダム群などを効率的に運用して水の安定供給に努めています

荒川流水管理 で 検索



荒川上流河川事務所



漫画家 魔夜峰央先生

大ヒット映画「翔んで埼玉」の原作者、魔夜峰央先生とのコラボが実現しました。魔夜先生描き下ろしのキャラクターが荒川の今を紹介します。



少しの工夫で節水できます 家庭でできる節水方法をご紹介します



食器を「ため洗い」すれば、節水につながります

生活用水として使用される水のうち、そのほとんどを炊事、洗濯、風呂、トイレが占めています。

- 洗面・歯磨きで水を出しっぱなしにしない
- 食器洗いでは蛇口の開け閉めをこまめにする
- お風呂でのシャワーは流すとき以外は止める
- トイレの洗浄ボタンの大小を使い分ける

など、普段の生活のなかでのちょっとした工夫が節水に役立ちますので、ぜひ試してみてください。